

# 三条市立上林小学校 いじめ防止基本方針

平成 25 年 6 月に「いじめ防止対策推進法」(H25 年法律 71 号)が公布された。これを受けて上林小学校では、本校におけるいじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため同法第 13 条の規定に基づき「上林小学校いじめ防止基本方針」を作成し、これを推進する。

## 1 いじめ問題についての基本的な考え方

いじめは、すべての児童に関する問題である。いじめ防止等の対策は、すべての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨とする。

また、すべての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないよう、いじめ防止等の対策は、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童が十分に理解できるようにする。

加えて、いじめ防止等の対策はいじめを受けた児童に生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、学校は、国、県、市、地域住民、家庭、その他の関係者との連携の下、いじめの問題を克服することを目指して行う。

## 2 いじめ防止のための手立て

### (1)いじめ防止学習プログラムに基づく年間予定

- いじめは、いじめる側(傍観者も含め)による、いじめを受けた児童に対する人権侵害問題と明確に認識して対応に当たる。
- 年間の活動を通して、児童にいじめ防止のための基本的な資質を育成する。
- 個々の活動の中にいじめ防止の視点、人間関係の円滑化を図る視点を設け、個々の活動を計画する。

月	生活目標 指導事項	関連事項	全校朝会の 指導担当
4	◎心を込めてあいさつをしよう ○クラスのめあてを決めて、なかよくなるよう ・どんなクラスにしたいか話し合う。 ・新年度の抱負を考える。 ・あいさつ・返事(安全な登下校)	・学級開き ・地区子ども会 ・集団下校	今井
5	○みんなで力を合わせてがんばろう ・運動会での協力。 ・きまりを守る。「上林っ子の約束」・学級のきまり ・学習のきまり・集団行動のルール・外遊び)	・連休前指導 ・子どもを語る会 ・運動会 ・6/1 持久走記録会	竹中
6	○落ち着いて学習しよう ・「三中学区学習はじめの一步」を身に付ける。	・生活アンケート① ・教育相談(全児童)	萱森

	<ul style="list-style-type: none"> <li>廊下や階段を静かに歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Q-U①</b></li> <li>・児童会（生活の題を考える場の設定）</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1学期のめあてを振り返り、夏休みを計画的に過ごそう</li> <li>・1学期を振り返る</li> <li>・夏休みの計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>なかよしアンケート①（休み時間の過ごし方）</b></li> <li>・地区子ども会</li> <li>・夏休みの指導</li> </ul>	<p>松岡</p> <p>夏休みの指導（今井）</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への参加・規則正しい生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パトロール</li> <li>・Q-U結果を共有する会</li> </ul>	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてに向かって最後までがんばろう</li> <li>・角田山登山での協力。</li> <li>・最後まで頑張る力を付ける。○自分の考えを</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角田山登山</li> <li>・中学生によるあいさつ運動（小中一貫）</li> </ul>	今井
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで発表しよう</li> <li>・学習や発表場面で進んで自分の考えをもち、発表する。</li> <li>・後始末や清掃をしっかりとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>生活アンケート②</b></li> <li>・<b>教育相談②（全児童）</b></li> <li>・文化祭準備</li> </ul>	萱森
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いて生活し、集中して学習しよう</li> <li>・整理整頓をする。</li> <li>・学習のルールを確認する。</li> <li>・廊下や階段を静かに歩く。</li> <li>・ルールを守って休み時間を過ごす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>なかよしアンケート②</b></li> <li>・<b>Q-U②</b></li> </ul>	竹中
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期のめあてを振り返り、冬休みを計画的にすごそう</li> <li>・1学期を振り返る</li> <li>・冬休みの計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みの指導</li> </ul>	<p>松岡</p> <p>冬休みの指導（今井）</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○冬を元気に過ごそう</li> <li>・新年のめあてをもつ。</li> <li>・降雪時に安全に過ごす。</li> <li>・体力づくり・風邪の予防に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団下校</li> </ul>	萱森
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感謝の気持ちを表そう</li> <li>・六送会の準備をする。</li> <li>・お世話になった人に感謝を表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>生活アンケート□</b></li> <li>・<b>教育相談（必要に応じて）</b></li> <li>・六年生を送る会</li> </ul>	今井
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間のまとめをしよう</li> <li>・1年間を振り返り、進級の抱負をもつ。</li> <li>・整理整頓をする。</li> <li>・春休みの過ごし方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区子ども会</li> </ul>	<p>松岡</p> <p>春休みの指導（竹中）</p>

## (2) 小中一貫教育に基づく社会性育成のための取組

いじめはどの子にも起こりうるという事実を踏まえて、すべての児童を対象にいじめに向かわせないための未然防止のための教育活動に取り組む。

また、未然防止の基本は、児童が、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。加えて、集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、いたずらにストレスにとらわれることなく、互いを認め合える人間関係・学級風土をつくる。

さらに、教職員の言動が児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることのないよう、指導の有り仮名に細心の注意を払う。

### <具体的な取組>

- ・社会性の育成・・・小中一貫教育に基づく小中交流活動、異学年交流活動、地域連携活動（いじめ見逃しゼロスクール集会他）（すぎの子班活動、全校角田山登山他）（SSTの実施等）（文化祭でのボランティア等）
- ・自治能力の育成・・・児童会活動、登校班での登校、各学年での下校
- ・学級づくり・・・構成的グループエンカウンターを取り入れた特別活動、行事を通してのグループ活動の充実、係活動・当番活動の充実、QUにかかる取組（河村茂雄著書参考）による計画的実践
- ・授業づくり・・・関わり合いのある授業、授業のユニバーサルデザイン化、三中学区はじめの一步の徹底
- ・道徳教育・・・体験的活動による豊かな感性の醸成、自己有用感と命を大切にする心の育成、「私たちの道徳」の活用

## 3 いじめ防止の早期発見のための手立て

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけ合いを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることが多いことを教職員は認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知することが必要である。このため、日頃から児童の見守りや信頼関係の構築に努め、児童が示す変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保つ。あわせて、定期的なアンケート調査や教育相談の実施等により、児童がいじめを訴えやすい体制を整え、いじめの実態把握に取り組む。

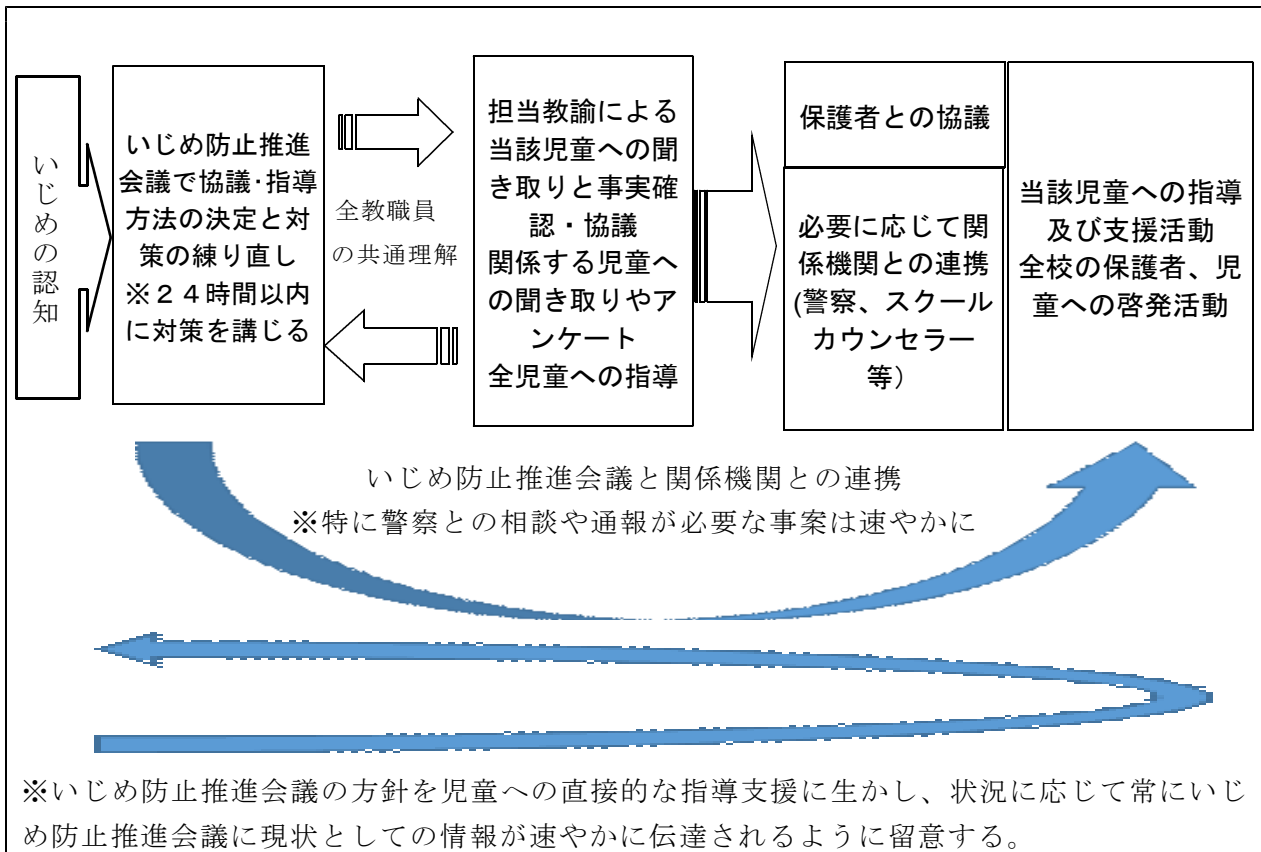
### <具体的な取組>

- ・いじめ実態調査・・・定期生活アンケート、休み時間の過ごし方の把握
- ・教育相談・・・定期教育相談の実施、チャンス相談、声かけ運動の実施
- ・HYPER-QU・・・学級満足度、学校生活意欲度、進路意識度、ソーシャルスキルの診断
- ・カウンセリング・・・スクールカウンセラーの活用

#### 4 いじめに対する措置

いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応し、被害児童のケアを最優先に掲げ、当該児童を守り通すとともに、加害児童に対しては、当該児童の人格の成長を旨として、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。これらの対応について、教職員全員の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関との連携の下で取り組む。

緊急事態は速やかに関係機関への通報を行うことを原則とする。



## 5 いじめ防止等のための組織

(1) 名称 この組織を「上林小学校いじめ防止推進会議」とする。

(2) 構成員 校長、教頭、教務主任、学年部主任、生活指導主任、養護教諭、警察のスクールサポーター、スクールカウンセラーを構成員とする。  
※事案によっては学識経験者や PTA 役員、自治会役員等を特別構成員とする。  
※スクールサポーターとスクールカウンセラーは市教委が直接依頼する。

### (3) 組織の具体的な役割

- ・ 学校の基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正の中核としての役割
- ・ いじめの相談・通報の窓口としての役割
- ・ いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動に係る情報の収集と記録、共有を行う役割
- ・ いじめの疑いに係る情報があったときには緊急に会議を開いて、いじめの情報の迅速な共有、関係ある児童への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携といった対応を組織的に実施するための中核としての役割

## 6 重大事態にかかる対応について

### (1) 重大事態の意味

- ① 「いじめにより」学校に在籍する児童の「生命、心身又は財産に重大な被害」が生じた疑いがあると認めるとき。
- ② 「いじめにより」学校に在籍する児童が「相当の期間」学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

※「いじめにより」とは、前述に掲げた児童の状況に至る要因が当該児童に対して行われたいじめにあることを意味する。また、「生命、心身又は財産の重大な被害」については、いじめを受けた児童の状況に着目して判断する。

<状況の例>

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| ・ 児童が自殺を企図した場合    | ・ 心身に重大な障害を負った場合 |
| ・ 金品等に重大な被害を被った場合 | ・ 精神性の疾患を発症した場合  |

※「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とする。ただし、児童が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手する。また、児童や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして調査・報告に当たる。

### (2) 重大事態としての認知と調査

#### ① 重大事態の認知

学校はいじめの認知があった場合にはそのすべてを教育委員会に報告する。その中において、重大事態であるか否かの判断を教育委員会に仰ぐ。

#### ② 重大事態の調査及び対応

重大事態については教育委員会がその事態に対処するとともに、当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、調査組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態にかかる事実関係を明確にするために調査を行うものとする。その場合の調査の実務は、教育委員会の指導を受けて学校が担当する。

※教育委員会はその調査を行ったときは、当該調査に係るいじめを受けた児童及び保護者に対し、当該調査に係る重大事態の事実関係等その他の必要な情報を学校とともに適切に提供するものとする。

### (3)いじめが原因で不登校状態になった児童への対応

#### ① 初期段階アセスメント

##### ア 欠席理由や必要な支援の見立て

- 第1段階：欠席1日目～・・・学級担任による対応
  - ・ 欠席理由の把握
  - ・ 学級担任等による電話連絡や家庭訪問の実施
- 第2段階：連続欠席3日目～・・・校内で情報を共有 ※遅刻・早退も加味
  - ・ 養護教諭等が、連続欠席3日～の児童をチェック、管理職へ状況報告
  - ・ 状況に応じて、周囲の児童や保護者、教職員等にも聴取するなどして不登校の原因や背景の把握に努める。
  - ・ 今後の対応方法を検討するとともに、児童や保護者とつながりのある教職員を中心に引き続き家庭訪問等を実施
- 第3段階：連続欠席や1ヶ月通算欠席20日目～
  - ・ サポートチームを結成しての支援、教育委員会の支援

##### イ 個々の児童の置かれた状況判断と個別支援

- 不登校の原因や背景となった要因を検証、解消。
- いじめが背景になる場合、いじめの解消に向けて迅速に対応。
- 「いじめにより相当の期間(年間30日を目安)欠席することを余儀なくされている疑いがある場合」に該当する状況となった場合、いじめ防止対策推進法第28条に基づく「重大事態」としての必要な措置。(「重大事態の措置」の具体的な対応へ)

##### ウ 個別の支援方策を検討

- ・ 無気力
  - ・ 情緒的混乱
  - ・ 遊び、非行
- } 傾向に応じた対応の検討

##### エ 適応指導教室、関係機関との連携

### (4)「重大事態の措置」の具体的な対応(不登校)

#### ① 教育委員会への発生報告・・・教育委員会を通じて市長へ

- ア 被害児童の氏名・学年・性別
- イ 欠席期間・その他児童の状況
- ウ 児童・保護者から重大事態である旨の訴えがある場合はその訴えの内容

## ② 調査主体の判断

ア 学校の設置者において調査主体(三条市又は学校)を判断する。

## ③ 調査組織の設置

ア 学校の設置者が、調査組織や調査組織の構成員を決定する。

※専門的知識及び経験を有する学校外の専門家の参加に努める。

## ④ 調査の実施

ア 主に聴き取りによる調査を想定。

イ 聴取の対象者は、当該児童、保護者、教職員(学級・学年・関係する教職員等)関係する児童を想定。

ウ 聴取内容は、いじめ行為が、いつ(いつ頃から)、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情やどうの人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員のこれまでの指導経緯等。

## ⑤ 聴取内容の記載と今後の支援方策の検討

ア 重大事態の発生から、1ヶ月程度を目途に、聴取した内容を書面にとりまとめる。(不登校の児童への聴取を申し入れたが)実施できなかった場合などには、その旨も記載する。)

ウ 調査期間中に当該児童が学校復帰した場合も、その時点での聴取内容をとりまとめる。

エ 聴取した内容を踏まえて、当該児童が、学校に復帰できるよう、家庭と連携して、今後の支援方策を検討する。

## ⑥ 当該児童・保護者への情報の適切な提供

ア 聴取結果(及び今後の支援方策)について、当該児童及び保護者に説明する。

イ 希望する場合には、いじめを受けた児童又はその保護者の所見をまとめた文書を、聴取の結果に添えることができる旨を説明する。

## ⑦ 聴取の結果等を地方公共団体の長等に報告

ア 聴取の結果、⑤の内容を書面にて地方公共団体の長等に報告。

イ 地方公共団体の長等による再調査があれば、調査実施に協力する。

## 7 その他の学校の取組

(1) いじめの防止に関わる職員研修を計画的に行う。

(2) いじめ防止等のため、学校評議員、PTA、同窓会、上林ひまわりコミュニティ21、自治会と連携していじめ防止等のための取組を強化する。

(3) 常に警察等の関連機関と連携し、いじめ防止等に係る取組を強化する。

(4) いじめ防止等に係る上記取組について「いじめ防止推進会議」において、PDCAサイクルにより取組の評価と改善を毎年行う。

< 聴取結果等とりまとめ・報告事項の様式 >

- 1 当該児童  
（学校名）  
（学年・学級・性別）  
（氏名）
  
- 2 欠席期間・当該児童の状況
  
  
- 3 調査の概要  
（調査期間）  
（調査組織）  
（外部専門家が調査に参加した場合は該当者の属性）
  
- 4 調査内容
  - ① 当該児童・保護者
  - ② 教職員
  - ③ 関係する児童・保護者
  - ④ その他
  
- 5 今後の当該児童生徒への支援方策